



1. 久喜市の概要

久喜市は関東平野のほぼ中央にあたる埼玉県の東北部に位置し、都心まで50キロメートル圏内に位置しています。

市域全体が平たんな地形で、週末ともなるとウォーキングやランニング、サイクリングに興じる人も多く見られます。

利根川や世界かんがい施設遺産に選ばれた見沼代用水など、多くの河川や屋敷林、農地などの緑豊かな景観が広がる一方で、交通は東北縦貫自動車道、国道4号及び国道122号、首都圏中央連絡自動車道及び国道125号が横断しているほか、南北方向にJR宇都宮線、東武伊勢崎線及び東武日光線が縦断し、5つの駅を擁していることから、広域的な交通の利便性に恵まれています。



世界かんがい施設遺産の見沼代用水

2020年に、スポーツや運動等を通じて誰もが心身共に健康となり、躍動する活気あふれるまちを目指すことを目的として、「健幸・スポーツ都市」を宣言。これを受けて、市内ではさまざまなスポーツイベントや活動が、より積極的に行われています。

2. 活動開始の背景・経緯

久喜市では現在、3人制バスケットボール「3 X 3」の活動が盛んに行われています。

私たち実行委員会では、小中高生と3つのカテゴリーにて、体験会や大会を開催しています。



小学生に教えるプロと高校生

その背景に2020年と2022年に、市内にある埼玉県立久喜高等学校バスケットボール部が3 X 3の全国大会で日本一に輝いた事が挙げられます。

私たちの活動のきっかけは、久喜高校バスケットボール部の生徒が、実行委員会のメンバーが運営する子ども食堂へのボランティアに訪れたことです。



子ども食堂で配膳を手伝うバスケ部員

バスケットボール部は、顧問の早川先生の指導のもと、競技だけでなく、ボランティア活動など様々な経験を積むことを是としており、子ども食堂のボランティア活動もその一環でした。その活動に感銘を受けた子ども食堂の運営スタッフが、「久喜高校バスケットボール部の3 X 3活動を応援して、市の活性化にもつなげたい」と結成したのが始まりです。

以来、市内ミニバスチームのコーチや飲食店オーナーなど、様々なメンバーが加わり、現在は11名で活動をしています。

なお、メンバーの一人に、埼玉県さいたま市を本拠地とする3 X 3プ

ロチームのオーナーが加わっており、この活動がきっかけで、プロチーム「埼玉ワイルドベアーズ」が久喜市を新たな本拠地として2022年4月から活動を開始しました。



埼玉ワイルドベアーズとの連携協定

3. 活動の内容

「3 X 3」は、監督やコーチがベンチに入らず指示も出せません。自分たちでゲームプランを考える必要があります。初めてのことも多く、戸惑うこともあると思いますが、今日は思いっきりチャレンジして、楽しんでください。」

令和6年7月21日に開催された3人制バスケットボールの大会「3 X 3 KUKI CUP 小学生大会」での主催者あいさつに、市内外から参加した選手がじっと聞き入っていました。



90超のチームが参加した小学生大会

3人制バスケットボール「3 X 3」は、東京2020オリンピックから正式種目となり、若い世代を中心に人気急上昇の種目です。

- 主なルールとして、
- 10分の試合時間か21点先取で決着
- 監督やコーチはベンチ入りできない

い

■メンバーは3名+交代要員1名の計4名

■ゲーム中メンバー交代は制限なし

などがあり、その展開やスペースの速さ、監督やコーチに頼らない＝プレイヤーの主体的な判断が養える、などの要素や、1チーム3～4人で構成の為、チーム数が多く結成でき、試合出場できる選手が増える・・・といった点から、3X3を導入するバスケットボールチームが増えていきます。

4. 普及に向けて

3X3は、東京2020オリンピックから正式種目となったこともあって注目度は高いものの、競技人口の少なさが課題です。

そこで、既存の5人制バスケットボール競技者やコーチに、まずは3X3の魅力を知ってもらい、自チームの練習メニューに採り入れてもらうことが普及のカギと考えました。

こうして企画されたのが、今回の小学生大会の1コンテンツとして実施された「高校生による3X3体験クリニック」です。



小学生にレッスンする高校生

クリニックでは、教える側の高校生6～7人を1グループとした中グループとし、中グループの高校生1人につき小学生3～4人を配置。小グループを結成します。中グループごとに練習メニューが組まれ、小グループで実際にメニューをこなす仕組みです。

メニューはすべて高校生が考案し、きめ細やかなフォローをしていくことを重視。

小学生にとっては、実践的なレッスンが受けられ、少人数であるが故の丁寧なフォローを受けることで、競技に親しんでもらえます。

加えて、本メニューはそのまま練

習メニューにも採り入れられるよう工夫されています。

高校生にとっても、教えることで普段の自分のプレーを省みるきっかけにもつながることから、今後も継続して様々なイベントで実施をしていく予定です。

5. 工夫している点

より多くの人に3X3に関心を抱いてもらうには、大会開催だけでなく、様々な価値を付与し、多くの方に主体的に関わっていただくことが肝心と考えています。

例えば、小学生大会では市民団体と連携し、20店舗以上が出店するマルシェを展開。

マルシェの来場者がマルシェに来た「ついでに」3X3を観戦する、3X3観戦者が「ついでに」マルシェを楽しむ、といったスタイルとすることで、訪れた500名近くの方にイベントを楽しんでもいただきました。

また、より多くの方に3X3の魅力を伝え、関心を抱いていただくために、高校生大会は買い物客で賑わうショッピングモールで開催しています。高校生の高いレベルのプレーを観覧し楽しむことに加えて、会場内にプロチームが運営するシュートチャレンジコーナーを設け、プロ選手との交流も図っていただくことで、「体験」「交流」要素も付加しています。

加えて、高校生大会では「フードドライブ」「ごみ拾い」といった「SDGs」の要素を付加しています。

大会の前後で高校生と観覧者が一緒に、会場周辺のごみ拾いを実施していますが、小学生やその保護者など、多くの方に参加いただいています。

また、フードドライブも、多くの寄付を頂くことができました。



会場周辺をゴミ拾いする高校生

このように、3X3だけでなく

様々な付加価値をつけることで、取り組み自体の価値が高まるだけでなく、様々なステークホルダーとの連携が可能となり、活動の幅がより広がることにもつながっています。

例えば、中学生を対象とした3X3イベントでは、地元ケーブルテレビの発案で、「能登半島の子どもたち応援企画」を立ち上げ、多くの方にご協力いただきました。

その他、実行委員メンバーのミニバスチームのコーチが、本取り組みをきっかけに3X3活動を高めようとU15チームを立ち上げたことは、部活動地域移行の課題解消にもつながっています。

これら様々な3X3関連の取り組みの核となるのが「高校生」です。

小学生大会や高校生大会では、試合の審判やタイムキーパー、受付までをこなしているほか、ごみ拾いやフードドライブなどのSDGsにも主体的に関わっていただいているなど、全ての活動を支えています。

高校生が核となり、大会の参加者や様々な立場で関わっている大人との交流が図られることで、多世代コミュニティの構築にもつながります。

6. 今後の活動の課題

このように様々な広がりを見せている3X3の取り組みですが、今後は本取り組みをモデルケースとして、周辺地域に波及させ、広域展開へとつなげることを考えています。

例えば埼玉県はロードサイド文化であり、郊外に大型ショッピングモールがいくつも設置されています。そこで、高校生大会のように、3X3イベント×商業施設×SDGs×マルシェというスタイルを複数の地域にて展開させることは十分に可能だと考えます（実際に、既に動き始めている取り組みがあります）。

広域で展開することで、本取り組みはスケールメリットの点でも大きな効果を生み出すことが期待されます。

今後も、高校生の力を借りて、取り組みをブラッシュアップしていくことで、多くの方に関わっていただけるような魅力あるコンテンツを創造していきたいと考えています。